

1、自己評価実施について

○実施期間 2020年1月27日～3月31日（新型コロナウイルスに伴う対応の為、集計・公表に遅れ）

○回答数 保護者評価 14人（17人中）

スタッフ自己評価 18人（18人中）

○回答数内訳 別紙

2、評価の分析

【保護者の評価】

○施設・設備の整備について

活動場所の面積では、わからないが3名。他事業所などとの比較対象がないこと、保護者によっては、直接活動の様子を見る機会が取れないことが理由と思われる。

指導員の配置に関して、わからない1名、いいえが2名。送迎に関しては、運転ができるスタッフが限られていることと、配置基準により事業所を離れられないことが原因で、保護者に送迎の協力を求めたことが理由と思われる。少なく感じるという意見については、具体的な記述はないが、十分に目が届いていないと感じていると思われる。

施設・設備の損壊については、わからないが2名いる。実際の施設の様子を安全という視点で確認したことがないからと思われる

○活動の全体状況の整備

虐待と思われるようなこと、個人情報の取り扱い、個別支援計画の見直しについては全員が、はいと評価されている。火災や地震、感染症等の対策については、わからないが2名、いいえが1名。避難訓練は年7回以上実施しているが、そうした経過を周知していないことが原因と思われる。

子どもに応じた活動については、いいえが1名。長期活動中での屋外の活動や、運動を中心とした活動を希望する保護者の意見もあり、そうした活動も実施はしているが十分と感じられていないことが理由と思われる。

子どもの活動の楽しみと満足については、意見欄にある通り、実際の様子を見られていないことが理由と思われる。

○保護者との関係づくり

入会時の説明については、いいえが1名、保護者の思いの汲み取りではわからない1名、いいえ1名。書面と面談で丁寧に説明をしているが、不十分に感じていると思われる。

苦情などの対応についてはわからない3名、いいえが1名いる。実際に苦情を寄せたことがないと、対応に関してのすみやかさの基準がわからないためと思われる。いいえの意見については、前述の忘れ物などの対応で改善が遅れたこと、改善をしても同様のことがあったことが原因と思われる。会報や活動の状況、保護者の交流の促しについては、わからないが1名。会報や学童ニュースとして普段の活動の様子など発信はしているが、実感につながっていないものと思われる。

家族が交流できる機会の工夫については、わからないが2名。事情により参加できない家庭もあることが理由と思われるが、行事をずっと続けてほしいという、交流の機会の工夫への評価もある。

父母会への協力については、わからないが3名。協力的な職員と、そうでない職員がいると思うという意見は、スタッフによって行事にかかわれる度合いが違うので、その違いを意欲の差と感じていると思われる。

子どもの状況や意見の聞き取り、活動の状況の報告については、送迎や面接の他、状況に応じて連絡を取り合っていることで、全員が評価してくれている。

【スタッフ自己評価】

○施設・設備の整備

利用定員と施設の面積、職員の配置人数で、わからない2~3名、いいえがそれぞれ1名。他施設を知らず比較できないためと思われる。いいえについては、子ども、スタッフ合わせて全員が動き回る活動では十分に動けない感じることがあるための人数、面積の評価と思われる。

意見欄にある照明器具の飛散については、カバーをして直接の破損は防いでいるものの、地震などによる破損では飛散の可能性があるため、絶対とは言い切れないとの評価。

部外者の侵入に関しては、意見にある通り、スタッフでの配慮はしているが、施錠していないことで、未然に防ぐには不十分という評価。

○活動の全体状況の整備

倫理綱領、虐待防止マニュアル、防火・防災マニュアル、感染症予防マニュアルに対しては各項目、わからないが複数名いる。特に倫理綱領についてはわからない5名と、いいえ2名と多い。それぞれ、法人や事業所として策定して、研修等も行っているが、周知が十分でないと思われる。

個人情報の保護に関して、いいえが1名。意見欄に記載がなく、具体的な理由は見いだせない。

食物アレルギーの意見で入所時に確認しないことがあるとあるが、入所時の基礎資料に記載されているので、その点の周知が十分でないためと思われる。

○実践的な力量の向上

15項目中10項目で、わからないという評価だが、心がけているが、出来ているかはわからない、という意見。また、意見欄にある、個に合う働きかけをしようとしている、なぜなのか考えようとしている。など、前向きに子どもたちに向き合おうとしている意見が多く、自身の支援を謙虚に評価している結果と思われる。

○保護者との関係づくり

パートのスタッフは入会時の面接や、会報の発行など、運営、広報にかかわる業務はおこなっていないので、わからないという評価が多いことになっていると思われる。

保護者の思いや願いの汲み取りでは、保護者と職員間にずれを感じる、踏み込めていないと感じる、汲み取り切れていないと感じることがある。願いを考えてはいるが評価しづらい。など、本当の願いを汲み取ろうとする結果、わからないという評価になっているものと思われる。

苦情への対応については、対応が遅い、迅速さに欠ける、改善までつながっているか疑問。と、対応はしているが十分でないという意見がわからないという評価になっていると思われる。

○関係者・関係機関との連携

相談支援事業所、学校との支援会議、協力医療機関、卒後の諸機関、放課後活動の連絡会での情報共有がわからないという評価が多い。支援事業所との連絡や学校の支援会議の意見に、参加はしていないが、情報共有はされている、とある。子どもたちの情報は伝えているが、どこどのどんなやりとり

での情報なのかが、明確に伝えられていないことで、どんな関係者・機関があるかわからないことが理由と思われる。

協力医療機関に関しては、あるのだが、これまで利用する機会がなかったことで、あるかわからないという意見になっていると思われる。

3、改善目標

○保護者の評価

わからないという意見の多くは、事業所の状態や実際の活動の様子を知らない部分が大きいと分析される。現在、子どもたちの様子を学童ニュースとして発行。保護者会などで、活動の様子を写真と共に紹介しているので、ニュースの充実と、保護者会への参加を呼び掛けて、実際の子どもの様子を伝えていく取り組みを継続していくことで、活動の様子や施設の状況の保護者理解に繋げていく

人員配置については。配置基準より多くスタッフを配置しているが、比較対象がないことや、送迎への協力依頼、生活面で子どもの忘れ物が続いたことがあり、不安を感じていると思われる。送迎に関してはドライバーの委託や、運転免許を持ったスタッフの雇用などで改善されてきている。生活面では、スタッフの申し送りや子どもの荷物整理の支援の見直しを図り、こちらも解消されてきている。現在の取り組みを継続すると共に、定期的な振り返りを行い、安全・生活支援の向上を目指していく

活動そのものに関しては虐待の不安はなく、子どもも楽しみにしてくれていると、ほとんどの保護者が評価してくれているので、現在の取り組みを継続していく。

○スタッフ自己評価

施設面での整備については、蛍光灯の飛散防止カバーの購入、さすまたなど防犯用の備品の購入を検討・実施して、施設の安全性を高めていく。

活動の全体状況の整備、関係者・関係機関との連携については、直接関わっていない、把握・活用の機会がないという意見があることから、通常行っている虐待防止研修や防災訓練の中でそれらの内容を再度確認して、関係する職員だけでなく、全スタッフが各種綱領、マニュアル等を周知できるようにしていく。また、シフトによっては参加できないという意見もある。現在は年間を通じて研修や訓練を複数回実施し、全スタッフが勤務時間内に参加できるようにしているが、シフトに入っていないだけでも訓練・研修のみの参加も声をかけていき、機会を増やしていく。

実践的な力量の向上については、子どもの課題やスタッフ同士の支援の価値観を共有する機会として、前述と同様研修などへ参加できる機会を可能な限り増やして、集団での議論を通して、子どもへの理解と支援への自信が深まっていくように取り組んでいく。

保護者との関係づくりについては、日常的にかかわれないこともあるので、親子交流行事の充実とそこにより多くのスタッフが参加するよう呼び掛けていくことで、スタッフと保護者が顔見知りになれる機会を増やしていく。

苦情などの意見への対応では、より早く対応できるように事実確認や改善の連絡の迅速化に努める